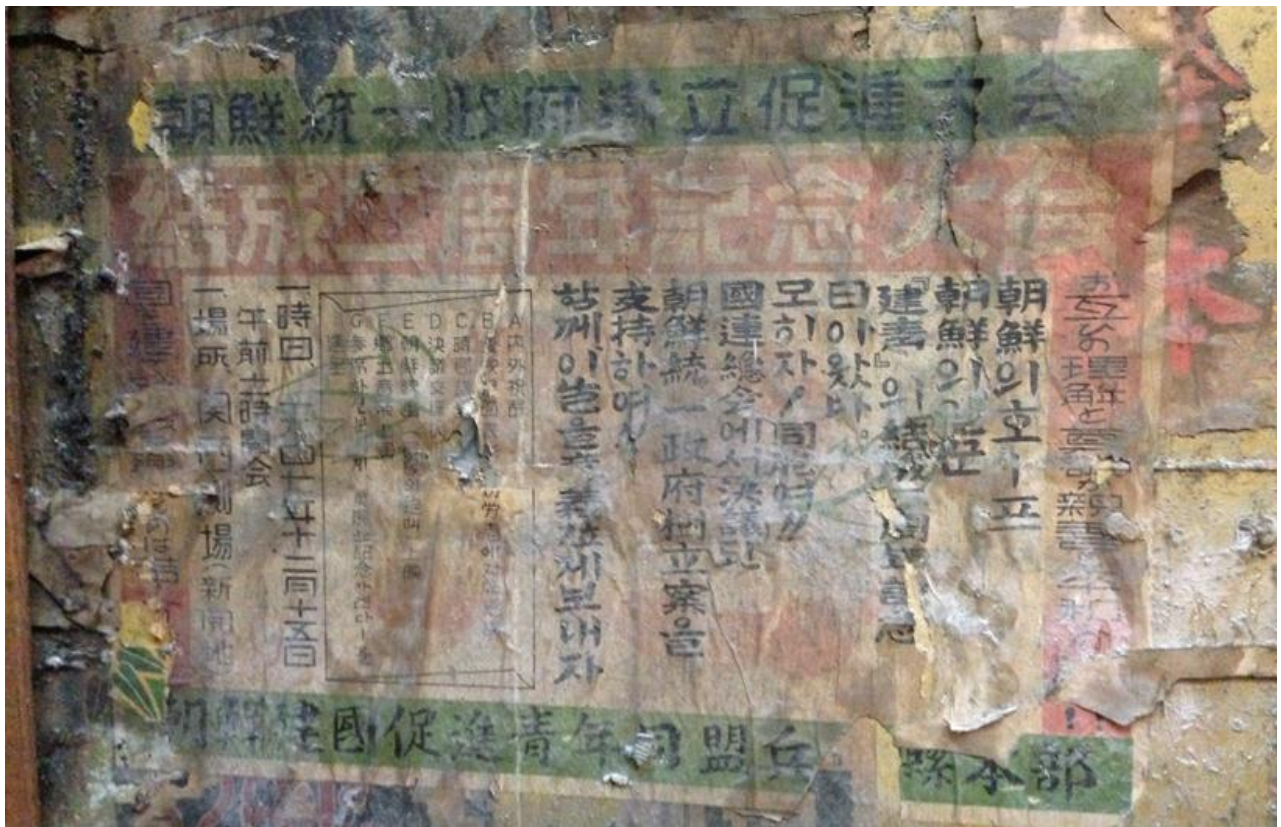


66 年ぶりにあらわれた建青のポスター in 神戸元町高架下

『むくげ通信』261 号（2013.11.24）23～24 頁

飛田雄一



11 月 8 日、尼崎市立地域研究史料館の西村豪さんからメールが入った。「ご無沙汰しております。先日元町の高架下を通っておりましたら、退去した店舗跡の柱に古いポスターを見つけました。辻川館長に知らせたところ、飛田さんへの情報提供を勧められましたので、お知らせします。よく 60 年も残っていたな、と感じました。場所は元町駅のすぐ西です。何らかの形で残すことができれば…と思うのですが」というメールだ。



元町 1 高架、ここから入って 5 件目、ビエンナーレポスターの左の柱

さっそく翌日出かけた。ほんとにすごい。66 年前のポスターだ。「朝鮮統一政府樹立促進大会／結成二周年記念大会」のポスターだ。場所は、JR 元町駅から高架下を西へ 5 件目の北側の空き店舗だ。左右に JR の大きな橋脚がありその左側の橋脚だ。セメントに直

接はってある。よく残っていたものだ。おそらく内装用のパネルの中側で風化を免れて残っていたのだろう。近所の店の人にたずねると半年前まで古着屋さんだったとのこと。後日、川那辺さん情報では、その店の名前は、「あかね屋チタン堂」。ちょうど神戸ビエンナーレ祭の期間中なので、他の空き店舗の展示室を何件も見て回ったが、ポスターらしきものは見つからなかった。ほんとにこのポスターが奇跡なのか・・・。

ポスター本文は、「お互いの理解と尊敬が親善と平和の宝[?]/朝鮮のホープ、朝鮮の働き手、建青の結成二周年記念日が来た、集おう！同胞よ！国連総会で決議された朝鮮統一政府樹立案を支持しよう。ともにこの日を意義深くおくらう/A内外祝辞、B優良団員表彰、功労者に対する感謝、C時局講演、D決議文採択、E朝鮮映画（民族の絶叫）上映[観たいものですー飛田]、F郷土音楽上演、G参席された方に美しい記念のカレンダーを進呈」

その集会は、時日：一九四七年十二月十五日午前十一時開会、場所：関西劇場(新開地)、そして「国を建て社会を興すものは？若人の？」(金信鏞さん判読)

という文字がある。下部には、「朝鮮建国促進青年同盟兵庫県本部」。

高祐二さんの調査によると、神港夕刊（1947年12月14日）に同集会の案内が掲載されている。



左建青集会、右朝連集会の記事（高祐二さん収集）

また高祐二さんに調査によると建青大会のすぐ近くの湊川公園で、同日（開始時間は異なる）朝連の集会も開かれている。全国的には朝連の力が大きかったが、神戸ではどのような関係だったのだろうか。

建青は、1945.11.16 東京神田で結成された。その規模や組織的広がりには朝連・民青には及ばなかったが、首都圏や京阪神ほか地方都市を中心に拠点を増やした。しばしば乱闘事件もおきたが、なかでも兵庫県尼崎支部は「アリラン部隊」と呼ばれ、他地域支部の結成などの支援にもまわった。（小林知子『在日コリアン辞典』）

このアリラン部隊のことは、朴憲行『軌跡—ある在日一世の光と影』（1990.9、批評社）に生き生きと描かれている。元町高架下もその抗争の舞台になったのだろうか？少なくとも建青のポスターを貼らせた店主は建青派だったのだろう。右の柱には別のポスターが貼ってあったがそれは建青のポスターのようにきれいに残っていない。辛うじて「女学院」の文字が見える。須磨区とあるから啓明女学院の生徒募集のポスターのようだ。（→）



神戸の闇市と外国人のことを研究した論文がある。むくげの会のゲストディにも来てくださった村上しほりさんの「神戸市の戦災復興過程における都市環境の変容に関する研究—ヤミ市の形成と変容に着目して—」（神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程前期課程修士論文 2011.1.17）だ。A4、2段組、123頁、とてもいい論文だ。その論文のことは、神戸新聞にも紹介されているのでその記事を縮小して貼り付けておく。（2012.12.25 神戸新聞夕刊）

論文のなかで、建青ポスターの貼られた 1947 年の高架下関連で以下の資料が紹介されている。

1947.7.5 実施の「7.5 政令」（休業措置）の関連で以下の資料を紹介している。

①「三宮駅から神戸駅までの間、大げさに言えば犬のくぐる隙間もない位ぎっしりとつまっている。（略）その店がおよそ千三百、日本人、中国人、朝鮮人はもと

より、ソ連、トルコ人の店まで加わっている国際市場。」（白川渥『KOB Eとその付近』日本交通社、1948年）

②「その前夜、お名残交響楽、飛ぶ札束寂し、酒か涙か・・・仲居さんの赤い目、酔えぬ女給さんの感傷（以上、見出し）／昼間は古着屋さんに押されている高架下の一軒屋は日が落ちたところから急に活気づき裸の電球に照らし出された狭いむっとするような店内には労働者、サラリーマンが一杯四十円の焼かちゅうを傾ける『おっさん、きょうでしまいか』『こんどはエライきつうてな』『気の弱いこといわんと何とかせいや』・・・かつてこんなことになってはと自発的にやった束縛政策『自粛営業』のポスターを前にこんな会が交わされる」（神戸新聞、1947.7.5）

高架下には当時古着屋さんが多かったようだ。その1軒件に建青のポスターが貼られたのだ。

また、高架下のその後のことなどが以下のようにも書かれている。

「1946年11月から1947年2月には、未だ国際総商組合が統括する三宮自由の緑地帯店舗群が確認された。これに加えて本来道路である高架下の占有問題は、1947年6月に神戸市との6ヶ月賃貸契約を結んだ。この後も、県令である露店営業取締規則との矛盾や期限を巡り折衝が繰り返された結果、1948年3月末までの道路使用許可の延長を得た。」

なんとかこのポスターが保存できないかと思う。その空き店舗をむくげの会が借り切って資料室にする、なんてのも理論的にはありえるが、無理だ。その高架下のその場所にポスターが残っているのが、貴重なことなのだ。

博物館の専門家ならセメントからポスターをきれいいにはがし取れるとも聞いている。場所は変わるがそれもいいかなと思う。それなら、はがすときにその空き店舗で集会をしたらいいなあ、新聞で宣伝して、「私がそのポスターを貼った」人が現れたりしたら最高だ。その集会に参加した、配られたカレンダーをもっている、なんでもいい。66年ぶりに姿をあらわしたポスターからいろんな空想が広がる。

